

知事と区市町村長との意見交換

(江東区、昭島市、府中市、立川市、国分寺市、豊島区)

令和6年10月24日(木)

13時30分～15時00分

○**行政部長** それでは江東区大久保区長との意見交換を始めさせていただきます。冒頭知事からよろしくお願いいたします。

○**知事** はい。大久保区長、どうぞよろしくお願いいたします。また、先日の「びじょんネットワーク」の御参加、誠にありがとうございました。また、江東区でもいろいろと女性目線での様々な取組をしておられるというふうに聞いております。それでは、早速、地域の課題、都政に関します要望などをお聞かせいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○**江東区長** よろしく申し上げます。それでは今日は、まず区の事業に様々な方の声を反映させるために、江東区が今年度行った取組をいくつか御紹介します。先程、知事からもおっしゃっていただきました1つ目は、「プロジェクト・スマイル」です。これは女性の視点で区の既存事業を検証する取組で、今年度は29歳以下の女性職員16名で防災、観光、まちづくりのほか、道路、公園、トイレなどの公共施設整備について検証し、改善点をまとめました。

まだまだ政策決定の場に女性が相対的に少ないことから、女性の視点を生かし、活躍を推進する試みとして実施したものです。女性を取り巻く環境はライフステージに応じて変化していくことから、今年度は20歳代、そして来年度以降は違う世代の女性職員で検証を行うこととしております。

2つ目は、「こどもグループインタビュー」です。これは、新庁舎建設の基本構想を策定するにあたり、幅広い世代の方からの意見を反映するだけでなく、未来を担う子供たちに自分の意見が形になるという体験を通して、区の仕事に関心を寄せ、区に愛着を持ってもらうことなどを目的に実施したものです。小学生から中学生まで16名の応募があり、当日は区長室をはじめ、区役所の執務室のほか、議場や災害対策本部室などを見学後、グループごとにインタビュー形式で意見をもらいましたが、大人では考えつかないような斬新なアイデアや、区長室が広すぎるんじゃない、といった歯に衣着せない率直な意見をいただいたところです。新庁舎建設基本構想の策定では、この他にも中学生以上を対象とした区民ワークショップを開催したところです。

3つ目は、「こうとう未来ミーティング」です。これは私が直接区民の方から御意見や御提案を伺うために、今年度、区内8カ所で行っているもので、区内在住、在勤、在学の方を対象に、直接参加のほか、オンライン参加もでき、開催時間も夜間や日曜開催など、誰もが参加しやすいよう工夫をして実施してまいりました。全8回、最終回を今日の夜予定してお

ります。

次に意見交換の項目、水辺空間の賑わい創出等による舟運事業の推進についてです。東京への来訪者を引きつける観光資源の充実が求められている中、東京都と本区は、更なる水辺のにぎわいを創出するため、隅田川テラスの活用や豊洲エリアのライトアップなどに関して、地域協議会での検討を開始したところです。区といたしましては、これらに併せて、船着場のサインやアクセスの強化、水辺の魅力発信など、官民が連携した一体的な利活用により舟運事業の充実を図るなど、地域と連携した取組の推進をお願いしたいと考えております。

具体的に申し上げますと、まず、隅田川テラスの活用では、区立越中島公園が都の越中島防災船着場と隅田川テラスに隣接しており、隅田川マルシェの実績を踏まえて、公園・河川空間の一体的・恒久的なにぎわい整備をお願いしたいと思っております。

豊洲エリアのライトアップでは、ライトアップ事業を実施することで、昼夜を問わない水辺空間の更なる魅力向上を図るなど、舟運の活性化につながる事業の推進をお願いいたします。

舟運事業の充実では、今後、様々なニーズに対して、都と区における船着場の予約システムの共有化や運航ルート、運航本数の強化等事業の拡大を是非御検討いただきたいと思っております。

また、江東区では内部河川での和船の更なる活用を検討しており、和船から見える景観にも配慮した護岸の整備など御協力をお願いいたします。桜まつりの際は本当に桜が見事ですので、是非小池知事にもお越しいただき、和船から見る桜の素晴らしさを御覧いただければと思います。

次に、臨海部の交通対策及び海の森への交通アクセスの充実についてでございます。8号線延伸については、東京都と江東区が協力してこの度、延伸が実現化し、本当にありがとうございました。さて、江東区の臨海部では、観光、商業集客施設等の増加とともに都営バスの利用者が急増し、特に都営バス都 05 - 2 系統における乗客積み残しの発生が大きな課題となっており、区民の皆様からも多数要望が寄せられております。区民が乗車困難になることがないように、都営バスの増便など更なる拡充をお願いいたしたく存じます。あわせて、速達性と大量輸送の特徴を有し、臨海地域の発展を支える新しい公共交通機関として期待されている東京 BRT は、令和 6 年 2 月から全路線が開通いたしました。今後も続くオーバーツーリズムへの緊急対策として、晴海・豊洲ルートへの新豊洲駅停留所の新設を、できれば都の負担でお願いいたしたく存じます。

また、海の森を含む中央防波堤エリアは、東京 2020 大会のレガシーとなる海の森公園が令和 6 年度末に開園するとともに、「東京ベイ eSG プロジェクト」においては、2050 年以降の将来像が「世界の玄関口として、人々が交流する『海と緑と調和した都市』」と示されております。こうした状況を踏まえ、本エリアにおいて今後更なる交通需要が生じることが見込まれるため、本区は都心部・臨海地域地下鉄について、海の森へと続くルートの必

要性を訴えているところですが、短期的には海の森公園開園に合わせた都営バスの充実などアクセス手段の確保をお願いいたします。

また、「SusHi Tech Tokyo 2024」の会場の一つとなった海の森は、都心から近い距離に位置しながらも、陸海空の広大なフィールドを有していることから、中長期的には自動運転や舟運、空飛ぶクルマなど、本エリアのポテンシャルを存分に活用した様々な交通アクセスの充実が必要であるし、可能であると思っております。つきましては、土地利用や開発状況に合わせて、海の森への交通アクセス充実に向けた取組を都と区で連携しながら推進してまいりたいと考えておりますので、よろしくをお願いいたします。私からは以上でございます。

○行政部長 はい、ありがとうございました。それでは、知事からよろしく申し上げます。

○知事 はい、ありがとうございます。改めて江東区は夢のある様々なプロジェクトをお持ちだと思った次第でございます。そして、「東京ベイ eSG プロジェクト」で示した将来像、サステナブルな都市の実現に向けて進めていくということで、ベイエリアを発展させていくためには新たな、お話がありました移動手段などを活用して交通アクセスの充実をさせるということは重要でございます。また、「東京ベイ eSG プロジェクト」は中央防波堤エリアなどで、次世代のモビリティの実装に取り組んでおりますので、特に高齢化、そして人口減少、これからますます加速すると見込まれますけれども、期待が高まっております自動運転の技術については、ベイエリアを中心に江東区とも連携いたしまして、早期の社会実装を支援していく考えであります。

これからも関係自治体との連携を深めながら、ベイエリアでの最先端技術の実装、ずっと実証実験ではなくて実装ですね、これに向けて取り組んでいきたいと考えています。栗岡副知事が続きます。ありがとうございます。

○副知事 それでは、私の方から大きく2点、まず交通関係についてお話しさせていただきたいと思います。臨海部において交通需要が増加する中、都はこれまでも都営バスの増便やBRTの導入、舟運の活用など、多面的な取組を進めてまいりました。

都営バスにつきましては、需給の変化を見極めながら、路線やバスダイヤを見直してまいりましたけれども、お話のございました都05-2系統も含めまして、臨海部においても適切に対応してまいりたいと考えてございます。また、BRTにおける新豊洲駅前の停留所の設置につきましては、今後、運行事業者や区と調整していきたいというふうに考えてございます。

現在、海の森公園の開園に向けまして、公園までのアクセス手段の確保について調整を行っている最中でございます。知事からお話があった「東京ベイ eSG プロジェクト」の取組も踏まえまして、自動運転など先端技術を活用した交通アクセス手段の充実・強化について、引き続き検討していきたいというふうに考えています。

また、水辺のにぎわいについてもお話いただきました。まず、隅田川テラスの活用についてでございますけれども、隅田川の越中島エリアでは、広々とした水辺空間をイベント広場等で活用できる仕組みづくりを目指して、9月より地域協議会での検討を開始したところ

でございます。また、水辺空間の利活用に向けた機運醸成のため、今年度、各種イベントを実施してございます。

次に、豊洲エリアのライトアップについてもお話しいただきました。東京の観光を更に発展させる上で、ナイトタイムの観光資源を生み出すことは重要でございます。都は、地域の観光施設や橋梁等へのライトアップに対して支援を行っております。また、本年8月には、江東区や民間事業者等で構成される協議会を設置いたしまして、今後、豊洲地区のライトアップに関して具体的な取組を検討していきたいというふうに考えています。

また、舟運の関係につきまして、舟運事業については現在2航路が開設されておりますが、立ち上げ期の運行経費や船舶整備費、船着場予約システムの導入費などに対する支援を行ってございます。江東区の意見も踏まえながら、連携して舟運の活性化に取り組んでいきたいというふうに考えています。和船から見える景観につきましては、区の検討が具体化する中で要望を伺っていきたいというふうに考えております。以上でございます。

○行政部長 区長、こちらからは以上になりますけれども、追加の御発言などございましたら、一言よろしくお願ひします。

○江東区長 はい、ありがとうございます。先ほど、小池知事がおっしゃっていただいたように、いろんなプロジェクト、魅力的なプロジェクトが今後も続いていくと思います。江東区の発展のためには、東京都との連携が本当に重要だし、不可欠であると思いますので、どうぞこれからも皆様よろしくお願ひいたします。私からは以上です。

○知事 はい、ありがとうございました。御苦勞様でした。これからも頑張りましょう。

○行政部長 これをもちまして終了いたします。本日はありがとうございました。

○**行政部長** それでは、昭島市臼井市長との意見交換を始めさせていただきます。冒頭、知事からよろしくお願いいたします。

○**知事** 臼井市長、このたび3期目を迎えられました。これからもよろしくお願いいたします。そして、昭島市、いろんな工夫もされているということで、ゼロエミッション東京の実現に向けてともに取り組んでいきたいと思っております。それでは早速、地域の課題、そして都政への要望などをお聞かせください。どうぞ始めください。

○**昭島市長** よろしくお願いたします。それでは、冒頭、昭島市について少し御説明させていただきます。御案内のとおり、昭島市は本年5月1日で市制施行70周年を迎えさせていただきました。新たな節目をスタートと捉え、今後も引き続き地域の皆さまの声をしっかりと受け止めながら、東京都や国への施策と連携を図り、昭島市の一層の飛躍に向けて市政運営に取り組んでまいりたいと思っております。また、今、知事から3選当選ということで、10月6日に投票があり、そして10月21日から3期目がスタートできたことを大変嬉しく思っています。今後ともよろしくお願いいたします。

昭島市の大規模開発に伴う子育て世帯急増への対応について、御説明いたします。次のスライドを御覧ください。昭島市の待機児童の状況ですが、認可保育園分園の新設や認定こども園、小規模保育園の新設等により、待機児童解消の取組を行っておりますが、その解消にはまだまだ至っておりません。昭島駅北側の大規模マンション開発により、本年9月から481戸の入居が開始され、ほぼ完売ということでございます。その後も277戸、そして100戸のマンションが予定されております。今後の待機児童につきましては、令和7年4月に新たに60人規模の認可保育園が開設いたしますが、令和7年度以降、大幅に待機児童が増加していくものと推計しております。

次に、学童クラブにつきましても、多くの待機児童が生じる見込みとなっております。こうした状況から、市民の皆様、子供たち、現場の皆様からは、1歳児、2歳児の保育施設への入所が大変難しいこと、保育士の負担が増加し、保育の質の低下や安全面が心配であること、休日や放課後の居場所が少ないこと、担い手不足や人材確保が困難となっていること、定員拡充や老朽化などのニーズに対応に伴う改修費が足りないといった声も上がっております。

昭島市では、子供の医療費助成や学校給食費の無償化などを行っております。小池知事の決断によって、当初は、小学校から開始しようかと思いましたが、補助を半分いただけることになりましたので、小学校、中学校を4月から無償化とさせていただきました。昨年度、子育てしやすい自治体ランキングにおいて、多摩地区の自治体の中では上位に入っているところであります。しかしながら、子供たちが地域で育ち、地域で子供たちの育ちを支えるためには、公共・民間を問わず、既存施設の世帯ニーズに合わせた利活用や、保育士や学童クラブの支援員の確保が課題となっているところであります。本市では、総合的な子育て支援拠点として、整備・事業展開として、派遣保育士に関する補助、幼稚園児保護者への補助拡充、放課後の居場所づくりのための学校への働きかけ、待機児童対策提案型事業の継続実

施、以上4点を重点項目と位置づけておるところであります。公共・民間を問わず、ハード・ソフト両面での東京都の積極的な財政支援をお願いしたいところでもあります。

次に、自治会活動の維持・再生と暑熱対策を通じた地域コミュニティの活性化についてです。スライドを御覧ください。平成元年度71.1%だった自治会の加入率は、今年度30%を切り、減少に歯止めがかからない状況にあります。一方、近年の猛暑により、夏期シーズンは地域住民が安全に外出できる状況にはなく、活動低下が懸念されております。国土交通省においては、都市のクールダウンを推進するとしていますが、ここで昭島市内のクールダウンスポットの具体的な取組をいくつか紹介させていただきます。スライドをお願いします。はじめに給水スポットですけれども、4駅のロータリーに設置していますが、本年はこれに加えて、市役所敷地内に、市制施行70周年ということで、新たに冷水対応の給水スポットを設置します。令和4年の3月に、全国の中小規模自治体の給水スポットの中で、給水スポット大賞もいただきました。次のスライドですね。これは市役所の敷地内に水を利用した景観施設、人工水路ですが、ちょっと故障していたものですから、市制施行70周年ということで、新たにこれをやろうということで、人工水路を稼働しました。また、他にも市内各所で市民の皆様、来訪者に本市の宝である深層地下水を身近に、そして夏の暑い時期に涼を感じてもらおうべく、様々な取組をしているところでもあります。小池知事も夏の真っ盛りに打ち水をされていたのをテレビで見ましたけれども、打ち水も本当に涼しく感じますので、駅に降りた瞬間、こういう水辺があるのを見ていただければ有り難いと思います。スライド3へどうぞ。自治会活動の維持・再生と暑熱対策を通じた地域コミュニティの活性化の総括であります。地域福祉や防災など複雑化する課題への対応から、地域コミュニティへの活性化が急務であります。

次のスライドをお願いいたします。今後、様々な主体が、季節を問わず安全に日頃から顔の見える関係を構築できる環境を整備するに当たり、自治会施設の建替え・改修や公共施設における各種暑熱対策をはじめ、様々な課題が生じるものと考えているところでもあります。

更には、この先、自治会だけではなく、地域で活動する多様な主体による有機的な連携が生まれるような、新しい形での地域コミュニティ創出を見据える必要があると考えているところでもあります。地域コミュニティの活性化に当たっての、この先に生じる様々な課題に対しても、ハード・ソフト両面で都からの財政支援をいただくようにできるのであれば大変幸せだというふうに思っているところでもありますので、是非よろしくをお願いしたいと思います。私からは以上です。

○行政部長 はい、ありがとうございます。それでは、知事からよろしく申し上げます。

○知事 はい。まず、すごいですね、マンションが2棟ですね、大規模ということで。

○昭島市長 3棟です。

○知事 その分、子供さんも増えるということをお話がありました。子供は言うまでもなく、未来を担うかけがえのない存在でございます。将来の昭島市を背負って立つような子供たちが育ってくれること、そのためにはチルドレンファーストの視点から子供・子育て支援に

取り組むということは重要でございます。望む人が子供を産みやすい、また育てやすい環境を整えるということからも、都はこれまでも出会いから結婚、妊娠、出産、子供の健やかな成長、そしてそれらを全部シームレスに支援するということを率先して講じてきたところでございます。

更に、今年度からは、都独自の運営基準で新たな認証学童クラブ制度の創設に向けた検討を進めておりまして、8月に専門委員会での議論を開始いたしました。これからも子育てしやすい東京の実現に向けまして、市と連携しまして、若年層、そして子育て世帯が抱える課題を踏まえた実効性ある対策を機動的に実施していく考えでございます。引き続き、副知事から説明をいたします。

○副知事 はい、それでは私の方から大きく2点お話しさせていただきます。一つは子育て支援についてでございます。都は、学童クラブの待機児童解消計画を策定した市区町村に対しまして、整備費の補助や既存施設を利用して放課後や長期休暇等に居場所を確保するなど、地域の実情に応じた放課後の居場所を確保する取組への支援を実施してございます。また、これまで待機児童の解消に向けまして、保育施設の整備費を補助するなど、市区町村が地域の事情に応じて実施する取組を広く支援してまいりました。保育士について、新規資格取得者の確保や就労継続支援、離職者の再就職支援などを行う市区町村を支援してございます。都は、市区町村が民間団体と連携して、学習支援や保護者への養育支援などを一体的に行う居場所づくりに対しましても、ハード・ソフトの両面から支援してございます。

次に、地域コミュニティに関連してお話しいただきました。町会、自治会は、地域コミュニティの中核として、防犯、防災、高齢者見守りなど、都民生活の安全・安心の確保、魅力ある地域づくりにおいて大きな役割を果たしております。都は、地域活動の担い手である町会・自治会が主催する防犯・防災活動、高齢者等の見守り活動等に関する取組を支援しております。

また、近年のこれまでにない暑さの中で、地域活動拠点における暑熱対策を一層進めていくため、市区町村等が設置する微細ミスト、日よけなど暑熱環境を緩和する効果のある設備に対する補助事業も実施してまいりました。都として様々な支援メニューを用意して市区町村の皆様へ情報をお届けしておりますけれども、皆様が取り組もうとされている施策にどういったメニューが活用できるかなど、不明な点がございましたら、是非行政部に御相談いただければというふうに思います。よろしく願いいたします。以上でございます。

○行政部長 市長、こちらからは以上になりますけれども、追加の御発言などあればよろしく願いします。

○昭島市長 引き続き東京都としっかりと連携してタッグを組み合わせながら、昭島市も、また東京都も国全体も発展するよう、微力でありますけれども、今後とも御指導、御鞭撻、重ねてお願い申し上げまして、御挨拶とさせていただきます。今後とも、よろしく願いします。

○行政部長 はい。これもちまして、昭島市臼井市長との意見交換を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。

○行政部長 それでは、府中市高野市長との意見交換を始めさせていただきます。冒頭、知事からよろしくお願いいたします。

○知事 はい、小池でございます。高野市長、御苦労さまでございます。それでは、早速ですが、地域の課題、都政に関する要望などについてお聞かせいただければと思います。お始めください。

○府中市長 府中市長の高野律雄です。小池知事との意見交換の場を設けていただきまして、心より感謝申し上げます。早速、本市が課題として捉えている2つのテーマについてお話をさせていただきます。1件目は、本市のリサイクルプラザについてです。現在、多くの市町村で廃棄物処理施設の老朽化が進み、更新需要のピークを迎えているところですが、近年、資材価格及び労務単価の高騰などにより、廃棄物処理施設の整備等にかかるコストが大きく上昇し、困窮する市町村が続出し、本市においても例にもれません。廃棄物処理施設等の整備費については、国の交付金の活用が可能ではありますが、国の交付金だけでは計画通りに整備を進められず、計画の変更を余儀なくされている状況であります。本件は、一般廃棄物の処理に係ることですが、プラスチックのリサイクルやリチウムイオン電池に由来する火災対策などは、都内全体における問題であります。また、廃棄物処理施設は都民にとっても必要不可欠な施設でございますので、計画どおりに整備でき、安定的で持続可能な資源循環が可能となるよう、廃棄物処理施設等の整備に対する東京都の財政支援をお願いしたいというところでございます。1件目は以上でございます。

続きまして、2件目、東京2025デフリンピックについてであります。本市では、令和3年度に、全ての市民が障害の有無にかかわらず相互に尊重し合いながら安心して暮らすことができる地域社会の実現を目指し、「府中市手話の普及及び障害者の意思疎通の促進に関する条例」を施行し、手話の普及や障害者の意思疎通の促進を進めてまいりました。こういった取組を進めてきた中、令和7年11月、来年の11月に日本で初めて開催される東京2025デフリンピックにおいて、本市の総合体育館が、レスリングのフリースタイルやグレコローマン競技の競技会場に決定されたことは、ろう者やろう文化への理解を更に深める絶好の機会となり、大変喜ばしく思っております。本大会の開催に向けましては、大会開催に向けての基本的な考え方を取りまとめた「第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025に係る府中市実施方針」を策定し、現在、本方針に基づき、「気運醸成」・「開催支援」・「理解促進」の3つの取組を柱に掲げ、各種取組を進めております。

本年11月には、競技会場となる総合体育館で1年前記念イベントとして、デフアスリートが参加するトークショーやスポーツ体験会を開催するほか、デフリンピック直前の来年9月には「第8回全国手話言語市区長会手話劇祭」を本市内で開催するなど、大会開催に向けての気運醸成を図ってまいります。大会後におきましても、開催都市として得たかけがえのない経験と多くのレガシーを共生社会の実現に向けた力に変え、「未来へつなげる、FUCHUから広がる」をテーマに、今後も各種取組を進めてまいりたいと考えております。そのためにも、大会の成功に向けまして、多くの皆さんに大会開催への興味と関心を持っていただき、

その認知度を高めていく必要があるものと考えておりますので、東京都におかれましても、大会開催の気運を高める取組と関連施策の一層の充実を図っていただくとともに、今後も引き続き、競技会場を有する本市と緊密な連携による大会開催、また、多摩地域をはじめ都内の市区町村が一体となって、東京 2025 デフリンピックの開催を盛り上げることができまよう、御支援いただきますようお願いをいたします。以上でございます。

○行政部長 はい、ありがとうございました。それでは、知事からお願いします。

○知事 高野市長、デフリンピックの件、いろいろありがとうございました。是非大会の成功のためにも、開催意義や魅力を多くの方々に知ってもらうこと、そして応援していただくということが重要でございます。そのために、市区町村との連携が不可欠と考えております。

これまで都は、皆様方の協力を得て、様々なイベントで大会のPRを行ってきているところですが、6月にはデフリンピックで多くの日本選手が活躍できますよう、即戦力を発掘するという、そのための未来のメダリスト育成につなげるトライアウト実施をいたしておりますが、府中市立総合体育館で開催したこのトライアウトでは、府中市との連携でデフリンピアンとの交流会、そしてデフリンピック応援隊の結成など、様々なプログラムを展開いたしましたところでございます。

それから、メダルデザインですけれども、この選定に当たっては、全国の小中高生を対象にしまして投票を実施するということから、みんな自分たちの大会なんだ、と考えてもらいたいというふうに思っております。これらのことは、次世代を担う子供たちとともに大会の準備を進めていくという考えの表れでございます。これからも密接に連携しまして、大会の盛上げ、そして運営準備を進めてまいりますので、ともに開催気運を盛り上げてまいります。続いて、副知事から説明をいたします。

○副知事 それでは、私の方から資源循環の方のお話をさせていただきます。持続可能な資源循環の促進のために、廃棄物処理施設の整備は重要でございます。廃棄物処理施設の整備は国の循環交付金の対象となっておりますが、都は、市区町村が行う交付金の申請や地域計画の作成に関しまして、技術的な支援を行っているところであります。都は、国に対しまして循環交付金の交付対象設備の拡充を要望してございまして、引き続き自治体の御意見も伺いながら、負担軽減等に向けて国に働きかけていきたいというふうに考えてございます。以上でございます。

○行政部長 市長、こちらからは以上になりますけれども、追加の御発言などあればよろしくをお願いします。

○府中市長 特に追加はございませんが、是非今後ともいろいろなことをお願いすることもあろうかと思いますが、御指導よろしく願いいたします。ありがとうございました。

○知事 お疲れさまです。ありがとうございました。

○**行政部長** 立川市酒井市長との意見交換を始めさせていただきます。冒頭、知事からよろしく申し上げます。

○**知事** 酒井市長、どうぞよろしくお願いいいたします。7月に広域防災倉庫と立川地域防災センターを視察いたしました。これらの施設ですけれども、救援物資の広域の輸送基地として重要な施設でございますので、いつ何時、何が起こるかわからない昨今でございます。防災拠点となるよう、大規模災害への対応力を強化する考えであります。それでは市長、地域の課題、そして都政に関する要望などをお聞かせいただきたいと思います。早速どうぞお始めください。

○**立川市長** 本日は、小池知事にはこのような場をつくっていただきまして、ありがとうございます。御怪我の方、その後大丈夫でしょうか。すっかりお元気そうで。私どもからは、何点か既に御要望を申し上げていると思いますが、本日は2点について特段の御配慮をいただきたくお願いを申し上げます。

1点目は、今年度の予算の中で東京都が実施をいたしております「小児インフルエンザワクチン任意接種補助事業」についてでございますが、私どもの市では、前市長時代に既に補助事業を導入しております。今回、議会等でも公明党の議員さん等から東京都の補助事業が新たにつくられたということで、2分の1補助だからという、立川市の予算も少し楽になるので、ほかの部分にというような、そういった議会の御提案も受けながら、実際どのような要綱になるのかなということをちょっと楽しみに見ていたんですけども、その要綱の中で、実際には既に行っている部分については対象にならず、新たに追加をする部分のみしか対象にならないというような記載がございまして、それですと、なかなか本市の場合には、東京都さんがせつかくこのような補助事業のスキームをつくっていただいたものもちょっと活用しづらいという点がございます。是非とも今後のこの運用の部分で要綱に規定されている新たなところではなくて、既存の事業もお認めをいただけるようになりますと、全市区町村で公平に補助が受けられるのではないかなというところで、特段の御配慮をお願いができないかということが1点でございます。

もう1点目は、教育に関するシステムについてでございますが、統合型校務支援システムについて、この間もそれぞれの市やあるいは区、自治体の中でシステムの開発を行ってきていることと思います。本市においても同じような状況でございますけれども、学校というやはり都の職員ということで、転勤等を伴うこともございますので、是非東京都として統一したパッケージをつくっていただけると、職員等教員の皆さんも、それぞれ転勤になってもシームレスにそのシステムを使うことができますし、また、それぞれの市にとっても、今いろいろ調達の関係で、共同調達で経費の節減というものにつながっておりますけれども、この学校のシステム系に関しても、是非東京都で統一した規格をつくっていただけると、各自治体にとっては、それぞれのシステム開発費や、また利便性という観点からもスムーズに行くのではないかなということで、是非ともこれは今日、明日という話ではないんですけども、是非東京都として今後、GovTech 東京を通じて、そういった面についても御配慮をいた

だけないかなという、この2点が私ども立川市からの特にとということでのお願いでございます。以上でございます。

○行政部長 はい、ありがとうございます。それでは、知事からよろしく申し上げます。

○知事 私の方からは、学校の方の支援システムについてお話ししたいと思います。教育の質を向上させていくというためには、教員の働き方改革を推し進める、そして意欲を持って働くことのできる環境の整備が重要であると改めて思うところでございます。教員が子供たちと向き合うための時間、そして授業準備の時間、この時間を十分に確保できますように、デジタルを活用するなどして、いわゆる校務の負担を軽減する必要があります。次世代型校務DX環境の整備でございますけれども、市区町村のニーズ、また意見を丁寧に聞き取りながら、国に対して必要な働きかけを行ってまいります。

そして、先般、東京都総合教育会議を開きまして、そちらでも都の教育委員会と教育DX推進の重要性について改めて認識を共有いたしましたところであります。GovTech東京とともに、オール東京で市区町村のDXを強力に推し進めてまいりたいと考えております。続いて、副知事から説明いたします。

○副知事 それでは、私の方から2点お話しさせていただきます。知事から話がありました校務支援システムの関係についてでございます。統合型校務支援システムについては、都内全ての市区町村に導入されておりますけれども、市区町村によって製品やカスタマイズの状態も様々でございます。文部科学省では、都道府県単位での次世代型校務支援システムの共同調達に向けて実証研究を行っており、令和8年度から4年間かけて次世代校務DX環境への移行を進めるとともに、共同調達を推進していく予定だというふうに伺っております。

次に、インフルエンザの予防接種の関係についてもお話しいただきました。子供は未来を担うかけがえのない存在でございます。チルドレンファーストの視点から子供・子育て支援に取り組むことが重要でございます。小児インフルエンザワクチンは任意接種でございます。都はこれまで任意接種に対する補助については、特に重症化予防が必要な場合や定期接種化までの時限的な対応として実施してまいりました。インフルエンザワクチンの接種回数につきましては、御承知のとおり、13歳未満は2回接種とされておりますけれども、1回接種である13歳以上と比べて負担に大きな差がございます。

このため、都は、子育て世帯の経済的負担軽減を図ることを目的に、13歳未満への接種に係る自己負担額は、13歳以上と同程度となるよう、接種費用の助成を行う市区町村に財政支援を行うことといたしました。補助対象を、補助事業実施前を基準として、個人負担の更なる軽減部分に限定することとしているのも、事業目的の確実な達成を期してのものでございます。今後も市区町村と連携しながら取り組んでいきたいというふうに考えてございます。以上でございます。

○行政部長 市長、こちらからは以上になりますけれども、追加の御発言などあればよろしく申し上げます。

○立川市長 ありがとうございます。小池知事からお話をいただいた点は大変心強く感じ

ておりますので、是非とも東京都としてDX化を進めていく上で、更にお力添えをいただければと存じます。

また、小児インフルエンザの点については確実にということ、東京都としての期待感とか、そういったものは理解しているんですけども、先行している自治体にとってはなかなか財政的に厳しいという点もありますので、是非とも再考していただけると大変有り難いとか、お願いだけさせていただければと存じます。以上でございます。

○行政部長 はい、ありがとうございます。これをもちまして、立川市酒井市長との意見交換を終了いたします。本日はどうもありがとうございました。

○行政部長 それでは、国分寺市井澤市長との意見交換を始めさせていただきます。冒頭、知事からよろしくお願ひします。

○知事 井澤市長、今日はどうぞよろしくお願ひいたします。新庁舎は来年1月からの業務開始というふう聞いております。これからも緑豊かで歴史ある国分寺です、大切に守りながら、新たな時代に向けての地域振興に取り組んでいかれますよう、また連携もしていきたいと思ひます。では、地域の課題、そして都政に関する要望などをお聞かせいただきたいと思ひます。それでは、どうぞお始めください。

○国分寺市長 まず、本日こういう形で小池知事におかれましては、意見交換の場を設けていただけること、感謝申し上げたいと思っております。今、小池知事からもお話がありましたように、国分寺市は昭和39年11月3日に市制を施行いたしまして、本年に市制施行60周年を迎えるということでございます。

この10年ほどの間を振り返りますと、国分寺駅北口の再開発事業の完了に伴いまして、新たなまちの賑わいが創出されました。そしていよいよ、令和7年1月からは庁舎を移転し、新たな市民サービスを開始します。この間、小池都知事をはじめとして、東京都の皆様には多大な御協力をいただいたことに感謝を申し上げます。一方、コロナ禍での未曾有の危機への対応等に加え、地震や風水害による自然災害に対する備えの重要性、これを改めて感じる機会も多くありました。新庁舎という新たな拠点を行政機能の礎としつつ、特に隣接する国分寺消防署、医師会等の関係機関などと強固な協力体制を築きながら、災害対応の拠点として万全を期していきたいと思っております。併せて、本市が誇るまちの魅力を発信しながら、令和7年度からの基本構想である「歴史をつなぎ 未来をひらく 個性がひかり輝くまち」を目指すべく、未来へとつなげるまちづくりをスタートさせていきたいと考えております。本市の60周年記念式典の来賓として、栗岡副知事が御臨席いただけること、深く感謝申し上げます。

本日は、本市における地域課題を踏まえながら、意見交換をさせていただきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。それでは、1点目でございます。都立武蔵国分寺公園と連携した防災対策の推進について、ということでございます。市内では犬だけでも3,650頭ほど登録されておりまして、ペットを家族の一員として日常生活を営んでいる市民は多くいます。首都直下地震の切迫性が指摘されている中、災害時にはペットとともに避難所生活を送ることを希望する声が上がっておりまして、令和6年能登半島地震におきましては、ペットと一緒に過ごすことを優先し、車中泊やテント泊をする被災者が多くいたことについては記憶に新しいことと思ひます。

都が発表した被害想定では、市内で最大約17,000人の避難所避難者が発生すると想定されており、現状ではペットと同室・同伴で避難ができる部屋を準備する空間的な余裕がありません。災害時には、学校の校庭においてテント泊を受け入れることも想定されておりますけれども、状況によりまして物資輸送等で車両の出入りがあるため、安全確保上の課題があると考えております。

そこですが、都立武蔵国分寺公園が新庁舎の隣にございます。テント泊用の避難場所として開放していただくことで、災害時におけるペットと同伴で避難できる環境の整備を進めたいと考えております。テント泊の実施にあたっては、火の使用やトイレ問題、鳴き声による近隣トラブルなどの課題があることから、公園管理者への指示など、協力体制の構築に向けた支援をいただきたいと考えております。

次に、2点目でございます。西東京警察病院跡の効果的な活用についてでございます。都が所有しております国分寺市西元町四丁目にあります西東京警察病院跡地は、現時点で新たな利活用の方向性が決まっております。少し放置された状態になっておりますので、地域住民からも、防犯・防災上の観点から不安の声が上がっております。市域が小さい本市においては非常に貴重な土地でございます。都と市の双方の行政需要に合致した利活用を検討する必要があると考えております。本市では、当該地の北に隣接する黒鐘公園用地を都から取得させていただきまして、現在はその一部を障害の有無にかかわらず、誰でも遊ぶことができるインクルーシブな遊具やバリアフリートイレ、車いす使用者用駐車場を備えた公園の整備を進めております。

隣接する西東京警察病院跡地においても、福祉サービスを中心とする施設等を整備することで、都と市が一体となって全ての「人」が輝く社会の実現に向けた取組が一層推進されるところと考えております。特に、令和3年度の都知事との意見交換でも議題に挙げさせていただいた介護老人保健施設については、高齢者の退院後の在宅復帰支援や在宅療養支援として重要な位置づけである一方で、土地の確保の課題等により供給が不足していることから、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができる環境づくりに向けて、施設の整備を検討していただきたいと考えております。また、その他の利活用といたしましては、本市では野球場を廃止せざるを得なくなるなど、一定の敷地面積が必要な体育施設の確保が課題となっております。生涯スポーツ社会の実現に資する野球場を含めた屋外体育施設の整備も視野に入れていただければ有り難いと考えております。なお、施設等の整備に当たっては、より要望が強いのですが、いずれにおいてもドッグランの設置を含めたものを考えていただければと思っております。

次に、3点目でございます。歴史文化のまちづくりに向けた支援についてでございます。本市は、「国史跡 武蔵国分寺跡東山道武蔵路跡」や全国有数の一大縄文集落であります「恋ヶ窪遺跡」など、埋蔵文化財を中心とする多くの貴重な歴史資産を有してございまして、その活用を図り、都民の文化的向上に資することは本市の重要な責務であるというふうに考えております。

また、市内の西元町二丁目への公の施設の移転に合わせて、当該施設に来訪者用の観光案内の機能を整備いたしまして、国分寺市都市計画マスタープランに位置づけた「歴史文化の拠点」として、武蔵国分寺跡一帯の回遊性を高める予定でございます。今後、国に対し財政支援をお願いする際には、是非、都の方のお力もお貸しいただければというふうに思っております。

出土した土器や瓦などは、市の所有物として適切に管理する必要がございます。収蔵数約2万箱という多くの埋蔵文化財を抱えておりまして、特に武蔵国分寺跡から出土する瓦については、当時の寺院経営に係る貴重な資料である一方で、その量が膨大となっております。本市の貴重な財産であり、ひいては国・東京都の宝でありますこれらの文化財を次世代に継承していくためには、適切な保存や管理に要する費用について、是非お力を貸していただければというふうに思っております。私からは以上でございます。よろしくお願いいたします。

○行政部長 はい、ありがとうございました。それでは、知事からよろしくお願いいたします。

○知事 まず、ペットと災害時に一緒に避難ができるような対策についてでありますけれども、災害時の避難対策というのは切実な関心事であります。発災時に、ペットを飼育している方の安全な避難行動を促して、そして命の安全を確保するという観点から、避難所におけます受入れ体制の整備は重要であります。ペットの同行避難については、各市区町村において、ペットの滞在場所や同行避難のルールを定めて、そして住民に周知するよう避難所管理運営の指針によって示しているところであります。市長がお話しになりました都立武蔵国分寺公園でありますけれども、震災時の広域避難場所となっていることから、国分寺市が運営する避難所と近接しているわけでございます。

今後、市から災害時のテントの設営について、場所の確保などの協力要請がございましたならば、広域避難場所の機能との調整を図りながら、適切に対応してまいります。車で一緒に行って、そしてエコノミー症候群になるとか、いろんな問題は言われているところでございますが、適切に対応してまいりたいと思います。引き続き副知事の方から説明いたします。

○副知事 それでは、私の方から2点お話しさせていただきます。まず、西東京警察病院跡地の利活用についてでございますけれども、介護老人保健施設や屋外体育施設の整備、またドッグランの整備について御説明いただきました。所有地は、貴重な都民の財産であるため、市内の活用意向がない場合は、市区町村における公共利用の意向も確認させていただきながら、地域の課題解決につなげるなど、効果的な活用を図ってまいりました。今後とも、本件跡地の活用につきましては、市の皆様とも十分調整した上で対応していきたいというふうに考えています。

次に、埋蔵文化財のお話もございました。文化財は、我が国の歴史、文化等の正しい理解のため、欠くことのできないものでございまして、かつ将来の文化の向上、発展の基礎をなす重要なものでございます。史跡「武蔵国分寺跡」等の遺跡や出土品は、国分寺市にとって重要な歴史遺産であり、適切な保存・管理や活用への取組は必要であるというふうに考えてございます。埋蔵文化財に係る国の補助制度は、公開を目的とした施設の整備・改修・維持管理費は対象となるものの、お話がございましたように、公開を目的とせず、収蔵のみを目的とした施設については対象外となっております。都は市の実情を踏まえまして、収蔵施設整備等に要する経費につきまして、国に対して財政措置を引き続き要望していきたいというふうに考えております。以上でございます。

○行政部長 市長、こちらからは以上になりますけれども、追加の御発言などあればよろしくをお願いします。

○国分寺市長 知事、それから副知事の方から非常に力強いお言葉をいただきまして、大変有り難く思います。しっかり市としても施策を進めてまいりますので、その際には是非御相談や御協力を今後ともお願いしたいと思います。ありがとうございました。

○行政部長 ありがとうございます。これをもちまして、国分寺市井澤市長との意見交換を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。

○行政部長 それでは、豊島区高際区長との意見交換を始めさせていただきます。冒頭、知事からよろしくお願いいたします。

○知事 今日はよろしくお願いいたします。今度のハロウィンはコスプレとかされるんですか。

○豊島区長 もちろんです。もう映画化された格好いいのをやる予定でございます。

○知事 本当に楽しみにしています。副区長も？

○豊島区長 副区長は今回はやりません。私が代表してやります。

○知事 はい、わかりました。それでは早速、地域の課題、都政に関する要望などをお聞かせいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○豊島区長 よろしく申し上げます。まずは日頃から豊島区政に対しまして、いろいろな御協力、御支援いただきましてありがとうございます。

これからも3C補助金を始めまして、都が打ち出した取組を積極的に活用して、区民の皆さんに喜んでいただける取組を進めていきたいと思っております。今後も東京都におかれましては、子供や女性、高齢者などへの財政的支援の継続、その他災害対策や障害者支援など、これまで以上に連携を強化いただければと思っております。

それでは、先に豊島区における取組をPRさせていただいた上で、意見交換の内容について3つ申し述べたいと思います。まず、豊島区の重点的な取組ということでお示しをしております。コロナ禍を経ていろんなことが変わっておりますので、早急に区政運営に反映させたいということで、来年度末に予定しておりました、区の最高指針になります基本構想、それと基本計画を1年前倒しで今年度末に策定することにいたしました。

新たな構想では、3つの理念を基にしまして、まちづくりの方向性を7つに整理し、総合的なまちづくり方針について、今、検討が佳境になっているというような状況であります。この基本構想では、これまで以上に区として重点的に取り組みたい分野について、区民の皆さんに分かりやすく打ち出したいと思っております。本日はその1つである障害児支援につきまして御紹介を申し上げたいと思っております。

次のページになりますけれども、障害児を育てる保護者の就労のニーズというのが高まっております。区では今年度から新たに重症心身障害児の通所支援事業所の開設時の家賃補助など、区独自の事業を進めているところであります。一方で、最近増えている声としては、子供の夏休みなど長期のお休みの期間に預かってくれる場所がない、特に朝ですね、放課後デイサービスと事業所っていうのが大体10時から始まりますので、朝、親御さんが出勤するのがなかなか難しくなってしまうと、どうしたらいいかと言ったお声が増えてきております。

また保育園の入園を希望される医療的ケア児のお母様なども増えてまして、本区では受入れに向けたガイドラインの策定だとか、研修の実施などをやっておりますけれども、なかなか受け入れサイドの環境、看護師の確保などがなかなか整いにくいというようなところが課題であります。

こうした状況を踏まえまして、今後、特に特別支援学校に通う障害児の長期休暇中、夏休みなどの支援、それから保育園などへの送迎支援について、東京都と連携を強化しながら進めていきたいなと思っているところであります。

次に、意見交換の内容に移らせていただきたいと思います。1つ目は、誰もが安全安心にいきいきと暮らせる住まいについてであります。本区の都営住宅の戸数というのが近隣区の1割程度と非常に少ないことから、区独自に民間賃貸住宅を借り上げまして、高齢者の皆様などへ安い家賃で提供する安心住まい提供事業をっております。また、東京さきエール住宅の登録拡大に向けても、独自支援で何かできないかということで検討を進めております。

また、本区としては子供の数は増えてきているんですけれども、住宅価格が高いといったこともあって小学校に入る前に引っ越していってしまうという状況が大きな課題であります。今後、低所得層だけではなくて、中堅所得層も含めまして、子育てファミリー世帯の定住化へ向けた支援が非常に重要だという捉え方をしております。こうした状況を踏まえまして、住宅確保要配慮者の住まいを確保するための経費の補助、子育てファミリー世帯の定住に向けた居住環境の整備など、できるだけ住み慣れた地域で、この先も安全安心に暮らしてもらえるような東京都の財政的な支援をいただくと大変有り難いと思っております。加えまして、都営住宅を改築する際に、住宅確保要配慮者や子育てファミリー世帯が入りやすい住戸の数を増やしていただければなど。また、都営住宅の移管に当たりまして、区のまちづくりの方針に応じた柔軟な対応を図っていただくと大変有り難いなと思っております。

次に、2点目といたしまして、デジタルファーストの視点での区政の再デザインという資料を御覧いただければと思います。いずれの自治体もそうかと思えますけれども、本区でも来庁不要の区役所を目指して、今、全庁を挙げてデジタル化を進めています。GovTech 東京の皆様の伴走サポートも活用させていただきまして、書かない、待たせない窓口 DX の実現に向けた検討を進めています。今年8月には、GovTech 東京のプッシュ型子育てサービスのモデル事業に先行自治体の1つとしても参加をさせていただきまして、いろんなチャレンジをしているところであります。ですが、なかなか更なる DX の推進という観点からいたしますと、まだまだ職員一人一人のデジタルスキルの底上げと意識改革が全くまだまだ足りないというのが実感です。

そのノウハウがどうしても乏しいところがあつて、東京都でもマインドセット研修などを実施していただいておりますけれども、意識改革、スキルアップと言う意味で継続的な取組が求められると思っております。またハード面におきまして、自治体情報システムの標準化について、先般東京都からもデジタル大臣、総務大臣への緊急要望をしていただきありがとうございました。そうした背景といたしまして、移行困難事例というのが次々出てきている、期限に間に合わないシステムの構築がどうなるんだろうと、現行システムを延長運用すると一体どうなるんだろうということで、各部署鋭意進めている一方で、非常に財政面、

また一番は区民の皆様に迷惑をかけるんじゃないかといったところで、非常に不安な気持ちを抱えております。

こうした状況も踏まえまして、東京都、そして GovTech 東京には、職員の意識改革のための年間を通した研修プログラム、またワークショップの開催などの継続的な伴走支援を是非お願いしたいと思います。また、システムの標準化は、国への緊急要望もいただいておりますけれども、今後の状況によっては、東京都独自の財政措置などを含めまして、移行困難事例に対する自治体への御支援をお願いしたいと思います。

最後は首都防衛のための実践的な訓練についてであります。本区では、能登半島地震もありまして、いざというときの対応に心配な区民の皆さんも大勢おられます。区民の皆様の防災意識向上に向けた周知、取組にも力を入れておりますし、避難所の開設運営訓練、要援護者対策、また、ペット防災などなど、いろんな防災対策を全庁を挙げ、またまちの皆様と共に進めております。

また、能登半島地震の時に、女性視点が足りないんじゃないかというような報道もございましたので、女性の防災 PT をまちの皆様と立ち上げまして、女性目線での様々な総点検を行っているところであります。一方で、ターミナル駅を抱えております本区といたしましては、広域的な帰宅困難者の訓練なども池袋サンシャインシティなどと一生懸命やっておりますけれども、これでいいのかなとちょっと心配なところもあります。

また、区において受援体制とか、負傷者や物資の移送体制、この辺がまだまだ検討が十分とは言いがたいというような状況で、首都直下地震がいつ起きるか分からないという中で、まだまだやっつけていかなきゃいけないことが多いと思っております。こうしたことから、是非東京都におかれましては、例えば帰宅困難者対策における複数の区の横断的な取組などに関して牽引役を担っていただきたいと思っておりますし、訓練実施のサポート、また申しあげましたように、なかなか区で進捗がしにくい受援体制だとか、人や物の搬送体制の構築といった事項に対して、東京都職員の皆様からの派遣など技術的な支援もいただけると大変有り難いと思っております。以上でございます。

○行政部長 はい、ありがとうございました。それでは、知事からよろしくお願いします。

○知事 はい、何点かのポイントがあったかと思いますが、私の方からは自治体 DX の推進についてお伝えします。東京全体の DX 推進していくためには、都と区市町村と GovTech 東京、この三者が連携、協働して取り組んでいくということが何よりも重要かと考えています。都では GovTech 東京の多様な専門人材を活用した伴走サポート、そして公共分野での活躍が期待できるデジタル人材を区市町村へと紹介をする GovTech 東京パートナーズ事業などを実施しているところであります。

また、区市町村の職員のデジタル力を向上させるということで、リテラシー教育の拡充、そして GovTech 東京の専門的な知見を生かして、DX を牽引する人材の育成のための専門研修、新たに開始をするというものでございます。人材育成支援、大変重要であります。いつも宮坂副知事がおっしゃるのは、やはり内製化をする。何かあったときにまた外注すると、

そのたびに時間がかかるということから、とにかく内製化して、毎年1人、2人でみていくと、それが積み重ねになるだろうというのが、基本的な考えです。引き続き区市町村のニーズや意見を踏まえて緊密に連携を図って、そして区市町村のDX後押しをすることで、東京全体のDXの推進につながるというふうに考えています。それでは、栗岡副知事が続きます。

○副知事 それでは、私の方から3点お話しさせていただきたいと思います。まず、自治体情報システムの標準化についてでございます。国が進める住民基本台帳、国民年金などの情報システムの標準化対応でございますけれども、令和7年度末までの移行が求められており、区市町村にとって非常に大きな負担となっている喫緊の課題だというふうに認識しております。

都の調査におきまして、都内の多くの区市町村から期限内の移行が間に合わず、また移行経費が不足する見込みであるとの回答もいただいております。このため、都は、引き続き、各自治体の状況を踏まえた伴走型サポートなどにより、移行困難事例を抱える区市町村への支援を行っていくほか、先般、宮坂副知事から、国に対しまして、十分な移行期間の確保や移行経費の全額負担を強く申し入れたところでございます。また、今月、都とシステム事業者との協議会を新たに設置する予定でございます。システム標準化の進め方について情報共有する場としていきたいというふうに考えております。今後とも、区市町村のニーズや御意見を踏まえながら、情報システム標準化対応への支援をはじめ、DXへの取組をしっかりと後押ししてまいりたいというふうに考えております。

次に、居住支援についてもお話をいただきました。都民に生活の基盤となる良質な住まいを安定的に確保することは重要でございます。都では、家賃等の低廉化が組み込まれた東京さきエール住宅に係る取組を、豊島区をはじめ区市と連携して行っております。

また、子育て世帯への良質な住宅供給のため、東京こどもすくすく住宅の認定を推進しております。更に、結婚予定者を含めた若年夫婦等が都営住宅に優先的に入居申し込みできる取組も進めております。都営住宅の建替えに当たっては、居住者の世帯数を踏まえ、立地条件や建築規制等について検討し、区市町村と協議の上、全体のバランスを勘案しながら建設戸数を決定しております。なお、昨年度建替えが完了しました西巢鴨二丁目アパートにつきましては、単身高齢者やファミリー世帯向け住戸等の確保に配慮しながら、従前戸数以上を建設いたしました。都営住宅に関しまして、引き続き区と丁寧に協議を行い、適切な対応を図っていきたいというふうに考えています。

最後に3点目になりますけれども、首都防衛、災害対策についてもお話をいただきました。都は毎年度、区市等と合同で帰宅困難者対策訓練を実施しています。現在、発災時における都内の帰宅困難者の状況を都と区市等で共有できるシステムを今年度末までに開発する予定でございます。今後、このシステムを活用することで、都と複数の区市、関係機関等が連携する実践的な訓練を実施していきたいというふうに考えています。

また、都は、区市町村が人や物資の支援を受け入れるにあたりまして、具体的なルール等を定められるよう、今年度、区市町村向けのガイドラインを改定する予定でございます。ま

た、負傷者の搬送につきまして、東京消防庁などと連携して、緊急度や人数に応じた搬送手段を確保することとしております。区市町村への物資提供につきましては、業界団体と協定を締結し、円滑に輸送する体制を構築してまいります。区市町村や関係機関等と連携し、負傷者や物資の搬送に係る実践的な訓練を繰り返すことで、実効性の確保に努めていきたいというふうに考えております。以上でございます。

○行政部長 区長、お時間迫っていますが、一言よろしく申し上げます。

○豊島区長 はい、ありがとうございました。直接お会いしたいなと思ってしまいました。懐かしいです。豊島区においては、とにかく東京都がいろいろ取組を始めたものは、もう全部活用させていただくという思いで臨んでおります。是非東京都も新しい取組などについては、概要で構わないので、少しでも早目に御一報いただく、あるいはこんな感じっていうのをいただくと、こちらもどうせやってもらうなら、ちょっとここをこうしてもらうとめっちゃやりやすいんだけど、ていうようなお話も是非やらせていただきたいなと思います。

いずれにしても、本当にいろいろ今後も情報共有させていただいて、連携してやっていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

○知事 ありがとうございました。ハロウィン頑張ってください。安全なハロウィン頑張ってください。

○行政部長 これをもちまして、豊島区高島区長との意見交換を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。